



QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻 頭 文 副理事長 渡邊 雄一郎

第 15 号 since2005.6.1

暑中お見舞い申し上げます。
厳しい暑さの毎日ですがいかがお過ごしでしょうか。
期待されたサッカーは残念ながら未勝利でブラジル大会を終えましたが、
2020 年の東京五輪に向け、水泳・陸上など様々な競技で、若い選手が
自己ベストを目指して全力を尽くしています。
今年は梅雨明けと共に、豪雨等異常気象で大きな災害が各地で発生しています。
被災された方には心よりお見舞い申し上げます。
これから先、本格的な台風シーズンとなりますので、十分な備えをして災害に備
えて頂ければと思います。

さて、5 月に開催された日田プレミアム研修では、「ヤブクグリの会」様や
「日田市雇用創造機構」様のご協力もあり大変実のある研修になったと思いま
す。特に、これから先少なくとも 20 年に渡って九州の林業が付き合っていかな
ければならない木質バイオマス発電所の見学は大変興味深いものがあったと思
います。見学した木質バイオマス発電所の規模は 5,700kw の発電所でしたが、
年間に使用する燃料チップは約 6 万トン(含水率 35%)となります。
これと同様か、それ以上の規模の発電所が今後九州内で 15 箇所程度できそう
です。間違いなく九州の林業界に大きなインパクトを与えられると思われます。
10 月末に開催される九州森林フォーラムでは、今後の九州の林業界の主役にな
りそうな木質バイオマス発電所をテーマに議論していきます。
10/31,11/1 に福岡で開催されますので、皆様ご参加のほどよろしくお願いいたし
ます。

発行日 2014.8.XX

<発 行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：宮崎県諸塚村

<編集責任>

大分・上津江オフィス

【目次】

第 2 回会員向けプレミアム
研修会のお知らせ P.2～P.5

QFN 通信会員便り P.6



NPO 法人九州森林ネットワーク 第3回プレミアム研修会in日田 活動報告

平成26年5月9日(金)～5月10日(土)

今回の研修会は、森林・林業を切り口に、地域の活性化の為にさまざまな活動をしている「ヤブクグリの会」との勉強会や交流会を通して「地域の活性化」や「森林・林業の未来」について話し合うことを目的として開催しました。議論を深めるためにも、日田の林業に関わるさまざまな場所に訪問しました。

5月9日(金)



さすが林業が盛んな日田。林業について、資料館から学校まであります。

上左) 日田杉資料館にて、日田杉の歴史や林業の歴史について学ぶ。

他3枚) 林業を中心とした専門分野を学べる日田林工を訪問。丸太割の機械、木工室など。

日田下駄工房「月隈木履」

左下の写真は、下駄の”台”が積み重ねられた写真です。これから鼻緒がつけられたりして、下駄になるものです。

日田杉の歴史が江戸時代から続いているように、下駄は日田の伝統工芸です。ひとつひとつ手作業で作られています。



株式会社 グリーン発電大分

昨年の11月から稼働が始まった「(株)グリーン発電大分」にも伺いました。

九州は、今後さらにバイオマス発電所が建設されるらしく、木材利用についての議論が深まりそうです。



5月9日夜～10日(土)

夜は日田温泉街の「みくまホテル」にてヤブクグリの会と合流し、懇親会を行いました。翌日は日田駅前の寶屋に移動し、小国町、諸塚村、(株)トライ・ウッドの活動報告ののち、ヤブクグリの会の取り組みを聴講する勉強会を行いました。

ヤブクグリの会とは…

全国各地から山や林業に興味を持った仲間たちが日田に集まり、日田の林業を中心に何か愉快的な事をやっていく会。スローガンは「いま、森を見よ！ヤブクグリ」。



↑ヤブクグリの会

プロデュース係：江福直樹さん



←ヤブクグリの会では、きこりが食べていたような素朴な弁当をイメージした「きこりめし」を発案。具材の産地は日田。器には杉を使用。

勉強会のあとにはこの「きこりめし」をいただきました。

QFN 通信会員便り

林業と木材を学んだ新入社員研修

株式会社トライ・ウッド 福沢祐子

㈱トライ・ウッドに入社した福沢と申します。林業界での就職を希望していたところ、㈱トライ・ウッドの求人を見つけて今年の春に上津江町に引っ越しました。

入社後二か月間は、集成加工部、製材部、森林保全部、エコ商品事業部の順に各部署で研修させていただきました。暖かみがあり優しい雰囲気が魅力といわれる木材ですが、加工していると重くて堅くて個性があり、全く違う印象を感じました。百聞は一見に如かず、という言葉がぴったりだと思いました。

「個性」というのは、曲がりや色味のことを示したのですが、ひとつひとつ割ってみるまでわかりません。こんなに赤黒い色の杉があるのか、大きなのこぎりでも切れないほどの曲がりを持っているのか、と驚きです。日ごろ街中で目にする木材はどのように加工されたのかと改めて考えるようになりました。

森林保全部では、「作業後の現場」や「急傾斜に加えて落葉落枝などによって足場が悪くなっている林内での測量」を見学しました。また、作業の提案のために山主さんの自宅へ訪問するのに同行させていただきました。木が伐られるまでには多くの苦労があり、それを乗り切るための技術が必要であり、何より伐採した木はすぐに元に戻るものではないため、慎重に計画を立てて実行していくことが大切だと学びました。



6月からは事務所に入り、林業に関わる制度やいろいろな立場の方のお話を聞きながら仕事をしています。まず社員としてしっかり仕事をこなすこと、次に山と直接関わりを持たない町の人にも林業の魅力とトライ・ウッドをアピールできるようになることが今の目標です。

